

直方ミニバスケットボールクラブだより

失敗やつまづきは成長への糧に



2025年4月8日、今日、学校は始業式がありました。すべての子どもたちが一生懸命に頑張りました。ここからまた、学校生活との両立を求めています。学校生活を第一優先に、土台づくりにしっかり取り組むことで、好きなバスケットにも集中でき、楽しむことができます。土台が不安定でくずれやすいと、つまづきが多くなり、楽しむことはできません。

とはいえ、成長途上の子どもたちです。失敗はつきものです。失敗に気づいたとき、しっかり反省し、自分をあらためていくことで成長します。また、何か問題を感じた時、自分だけでは解決できそうにない時、一人で問題を抱え込むのではなく、相談すべき人にちゃんと相談することを覚えることも大切です。頼るべき人に頼ることができる力、そしてそのつながりを育んでおくことがとても大切です。

ここまで「5年生」と呼ばれていた子どもたちは6年生。いつから「自ら求めて動けるようになるか」、見守りつつ、必要に応じて刺激しつつ、促していきます。そのためにも、スタート時点で、納得いくまで、ていねいなやりとりを重ね、話し合い、基本的なことを全員で確認し、相互に責任をもつことを求めるところからスタートしました。

バスケットであろうが、ほかのことであろうが、なりた自分になるためには、チャレンジしないことにはなれません。チャレンジしなければ、失敗もないかわりに成功ありません。というより、実は、チャレンジしないことが、大きな失敗です。本当の失敗は、チャレンジしないことですね。チャレンジしないから失敗もしていないというのは、自分を成長させる機会を失っているということで、そのことが、大きな失敗になっているということです。失敗せずに成長することなどありません。チャレンジしたうえでの失敗は、失敗ではありません。それは成功へのアプローチです。

教育現場でもよく成功体験の重要性が言われますが、成功体験の裏には失敗体験があることを併せて言わなければなりません。成功ばかりを積み重ねておとなになっている人なんていません。おとなの私たちも今なお、失敗と反省を繰り返しながら歳を重ねているのではないのでしょうか。私もその一人です。子どもの時の失敗は成長のエネルギーです。そうしなければなりません。「失敗は成功のもと」「失敗は成功の糧（カテ）」です。

